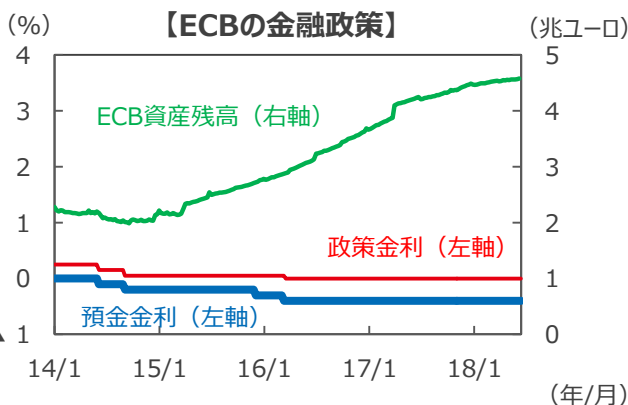


今日のトピック ECBの金融政策（2018年6月）

QEは年内で終了、金利は来夏まで据え置き

ポイント1 QEを延長し、年内で終了 政策金利は据え置き

- 欧州中央銀行（ECB）は14日の理事会で、量的緩和策である資産購入プログラム（QE）を、10月以降は、現在の月間300億ユーロから同150億ユーロに減額して延長し、2018年末に終了すると決定しました。
- 政策金利、中銀預金金利（金融機関が余剰資金を預け入れた際に適用される金利）は、それぞれ0.00%、▲0.40%に据え置きました。



（注）データは2014年1月3日～2018年6月14日（週次）。
ECB資産残高は6月8日まで。政策金利はMain Refinancing Operations 金利。預金金利はDeposit Facility 金利（翌日物）。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 景気は減速したが底堅い 物価は足元で上振れ

- ECBは記者会見で、1-3月期のユーロ圏景気について、前四半期の強い景気の反動で、やや減速しているとの認識を示しました。一方で、景気は引き続き域内外の需要に下支えされて底堅いとしています。
- ユーロ圏の5月の消費者物価指数（HICP）は前年同月比+1.9%と、原油価格や賃金上昇の影響などから、4月の同+1.2%から大きく上昇しました。ECBは物価について、中長期的にはECBの目標とする2%以下かつ2%近傍に近づくと見えています。



（注）データは2016年5月～2018年5月。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和は当面続く見込み

- ECBはQEについて、2018年末に買入れを終了した後も、現在保有している国債等を再投資し、当面は残高を維持するとしてきました。また、各政策金利については、少なくとも2019年夏までは現在の水準にとどまると、従来のQE終了後もかなりの期間据え置きとの表現から修正しました。
- 今後は、QE終了によるイタリア国債の金利上昇や、イタリアのポピュリズム新政権による財政悪化が懸念されることから、ECBは保有国債残高や政策金利の当面維持といったフォワードガイダンスを強化しました。また、ECBは保護主義の高まりもリスク要因と指摘しており、引き続きその行方に注目です。

ここも チェック!

2018年6月 8日 『ユーロ安』を招いた政治リスクと景気の減速
2018年4月 12日 近く目標達成が期待される欧州の『財政赤字』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。